

# 日本人中国語学習者によく見られる誤用について ——大学の初修中国語履修生の誤用例を中心に——

王 一萍 (WANG Yiping)

## はじめに

呉紅華によると、九州産業大学（以下「本学」という。）は中国や韓国に近い地理的条件から物流や観光面での人的移動など中国と韓国からの観光客が多く来るため就職にメリットを感じ、中国語と韓国語の履修を選択する学生が非常に多いという<sup>1</sup>。特に日本と中国は同じ漢字文化圏に属し、日本語と中国語は発音が異なっても、同じ単語を共通の意味で用いる場合が多くある。また、日本の大学生は高校を卒業するまでに、既に 2136 個の常用漢字を習得しており<sup>2</sup>、中国語の常用漢字の 2/3 以上を身につけていると言われる。日本人中国語学習者は中国語の漢字を書くルールを容易に把握できるという「正の転移」の影響で、中国語は難しくないと思い込んでいるため、安易に中国語を選択する学生が少なからずいると思われる。しかし、学習者に習得した単語・文型を用い、作文や和文中訳を行わせると、中国語の漢字の書き方から文型の使い方に至るまで、共通のパターンの誤用がよく見られる。誤用の原因として考えられるのは大きく 2 つあり、1 つ目は日本語にも漢字があることで、中国語の漢字を習得する際、自分の記憶や認知に頼る傾向があることと思われる。2 つ目は中国語と日本語の文法構造には様々な差異があるため、日本語による自然な発想が、外国語である中国語の構造と一致するとは限らないからであろう。これら 2 つのいずれもが母語である日本語からの「負の転移」によるものであると考えられる。

よって、本稿は筆者が担当した初修中国語の履修生による誤用を主な研究対象とし、中国語の漢字の書き方・文法という 2 つの項目に分け、誤用の原因ごとに更に細かく分類し、考察・分析を行う。その上で、第二言語習得の理論に基づき、中国語の学習効果を高める教授法を提案することにより、本学における今後の中国語教育に役立てていこうとするものである。

## 1. 本稿に使用される資料と研究協力者について

筆者は令和 4 年度から本学の「中国語会話Ⅰ」と「中国語会話Ⅱ」を担当した。「中国語会話Ⅰ」の履修者は中国語の初心者で、「中国語会話Ⅱ」の履修者は「中国語会話Ⅰ」の単位を取得した者に限定されている<sup>3</sup>。授業内容は主として奥村・塩山・張(2017)に沿って行ったが、「中国語会話Ⅰ」は第 1 課から第 8 課まで、「中国語会話Ⅱ」は第 9 課から第 13 課まで指導

<sup>1</sup> 呉紅華 2022、60 頁

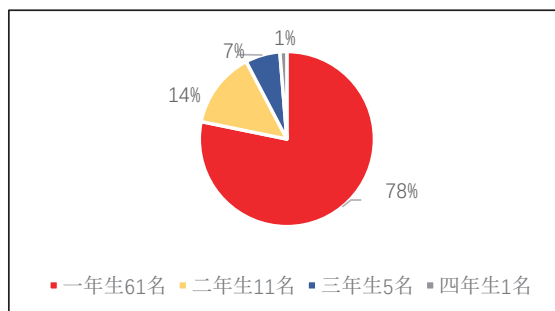
<sup>2</sup> 文化庁 2010 を参照

<sup>3</sup> 九州産業大学 2022、31 頁

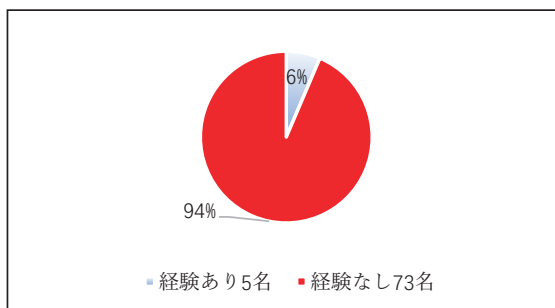
した<sup>4</sup>。検定スタイルの練習問題と実践的なドリルは本教科書の特徴で、各課終了時に練習問題とドリルを学生にさせ、翌週に教授用資料の小テスト（筆記のみ）を実施した。文法項目を定着させるため、各課のポイント項目を用い、例文を作成後、e-learning に提出させた。授業の最終回に各学期で学習した内容の総復習として、オリジナルの練習問題（和文中訳）<sup>5</sup>を授業中に解答させた。本稿で取り扱う誤用例は上記資料から採集したものである。詳細は以下の通りである。

- ①教科書の各課の練習問題の解答
- ②教科書の各課のドリルの解答
- ③教科書の各課の小テストの解答
- ④学生に e-learning に提出させた課題
- ⑤和文中訳の練習問題の解答

尚、本稿の作成に必要なデータ収集にあたり、78名の学生の協力を得た。調査開始時に、参加者には収集したデータの使用法および範囲を説明し、全員から調査データ使用について書面による同意を得た。78名の協力者の内、一年生は61名で、協力者全員の78%を占める。また、大学に入学する前に、中国語学習経験があるのは5名のみで、残りの73名は(94%)は中国語の初心者であることが分かった。協力者の学年構成及び中国語学習経験の有無を以下のグラフ1・2にまとめる。



グラフ1 協力者の学年構成



グラフ2 中国語学習経験の有無

<sup>4</sup> 各課の文法項目は付録1を参照

<sup>5</sup> 和文中訳の練習問題は付録2を参照

次章から、上記 78 名の協力者から収集した誤用例を「中国語の漢字の書き方によく見られる誤り」と「文法面によく見られる誤り」の順に分け、誤用文と訂正文と共に提示することで、誤用傾向とその要因について考察を行うことにする。なお、誤用文と訂正文については、誤用箇所と訂正文所のどちらも下線によって示す。欠落については、その欠落箇所に“Φ”を挿入する。

## 2. 中国語の漢字の書き方によく見られる誤りと要因分析

日本語にも漢字があるため、中国語の漢字を書くことは日本人中国語学習者にとって、「ハールドル」とは言えないようであるが、日本人中国語学習者が中国語の漢字を学ぶにあたっては、自身の認知や記憶に頼る傾向があり、如何に正確に中国語の漢字を書くかということに対し、気にも留めていないという状態に陥ることが多く、母語である日本語の影響を受けているのがよく観察される。

本章では日本人中国語学習者によく見られる中国語の漢字の書き間違いを下記の 4 種類に分類し、要因を考察していく。

### 2.1 習慣的書き間違い

- ① (誤) 我也学习英語。  
(正) 我也学习英语。 [私も英語を勉強する。]
- ② (誤) 你会开[知]车吗?  
(正) 你会开汽车吗? [あなたは車を運転することができるか?]
- ③ (誤) 我喝紅茶, 你呢?  
(正) 我喝红茶, 你呢? [私は紅茶を飲むが、あなたは?]
- ④ (誤) 那儿有教游泳的老師。  
(正) 那儿有教游泳的老师。 [あそこに水泳を教える先生がいる。]
- ⑤ (誤) 这件衣服貴不貴?  
(正) 这件衣服贵不贵? [この(一枚の)洋服は高い?]
- ⑥ (誤) 好久不見。  
(正) 好久不见。 [お久しぶり。]
- ⑦ (誤) 我的专业是经营。  
(正) 我的专业是经營。 [私の専攻は経営である。]
- ⑧ (誤) 墨板上写着很多字。  
(正) 墨板上写着很多字。 [黒板に沢山の字が書いてある。]

上記誤用例は日中の漢字の構造上の一部分が同じであるがゆえに、学生が習慣的に日本語の漢字を使ってしまう誤りである。このタイプの誤りは初級の段階では比較的頻繁に見られるものであり、中国語の漢字(簡体字)に対する認識が甘いことに起因すると思われる。指導者がその場で正さないと、根強い習性となる可能性があり、中国語に熟達した上級クラスの学生であっても、類似した書き間違いを犯すことも屡々ある。

### 2.2 画数の増減や変形による書き間違い

- ⑨ (誤) 多少[钱]?  
(正) 多少钱? [いくら?]

- ⑩ (誤) 请多美照。  
(正) 请多关照。 [どうぞ宜しくお願いします。]
- ⑪ (誤) 他[ ]不是日本人。  
(正) 他们不是日本人。 [彼らは日本人ではない。]
- ⑫ (誤) 我们不喝咖啡。  
(正) 我们不喝咖啡。 [私達はコーヒーを飲まない。]

上記の例⑨と⑩は中国語の漢字の画数の増加による誤りであり、例⑪は画数の減少による誤りである。例⑫は字形の変形による書き間違いである。いずれも日本語の漢字と中国語の漢字が同じであると思いつみ、日中漢字の細部の違いに気づかず、漢字は「手慣れたもの」という錯覚に陥っていることから起こしてしまう書き間違いであろう。

### 2.3 漢字の組み立ての混乱による書き間違い

- ⑬ (誤) 我不咆蛋糕。  
(正) 我不吃蛋糕。 [私はケーキを食べない。]
- ⑭ (誤) 我喜双猫。  
(正) 我喜欢猫。 [私は猫が好きだ。]
- ⑮ (誤) 妈妈做的饭得很好吃。  
(正) 妈妈做的饭很好吃。 [母が作ったご飯はおいしい。]
- ⑯ (誤) 我老字很漂亮。  
(正) 我老家很漂亮。 [私の実家はとてもきれいだ。]

上記の誤用例はいずれも組み立ての混乱によるもので、偏が正しいが、旁が間違っている点で共通している。これらの誤りに見られる漢字は中国語にも実際に存在しているが、その意味は全く異なる。例⑬の“咆” páo は「猛獣がほえる」という意味であり、例⑭の“双” shuāng は「対になっているものを数える量詞」、例⑮の“得” de は一般的に「結果や程度補語を導く助詞」として用いられる。例⑯の“字” zì は「文字・漢字」という意味を表す名詞である。

このタイプの書き間違いは学生の漢字に対する認識不足によるものであると考えられるが、指導者が中国語の漢字の正確な書き方を学生に覚えさせる工夫、いわば指導方法にも不足があることは否定できないと思われる。学生の多くは就職や単位取得のためという明確な目的があることから、日頃の授業において、指導者も学生も「会話力」を重視する傾向が明らかであり、その結果、「聞く⇔話す」の訓練に重心を置き、それに対し、中国語の「漢字」を丁寧に「書く」練習を疎かにしていることが最大の要因ではないかと考えられる。

### 2.4 音の混同による書き間違い

- ⑰ (誤) 我吗妈做的饭很好吃。  
(正) 我妈妈做的饭很好吃。 [私の母が作ったご飯はおいしい。]
- ⑱ (誤) 清多关照。  
(正) 请多关照。 [どうぞ宜しくお願いします。]
- ⑲ (誤) 多小钱?  
(正) 多少钱? [いくら?]

このタイプの書き間違いの原因は学生の発音の不正確さにあるだろうと考えられる。読み間違いは子音・母音・声調のどの箇所でもあり得る。上記の例⑰の“吗” ma (～か) と例⑱の“清”は“妈” mā (お母さん)、“请” qǐng (どうぞ～してください) の子音・母音と同じで

あるが、声調の読み違いからくる書き間違いであろう。それは日本語に四声がないため、声調が馴染みにくいか、完璧に把握するのに困難があるからだと思われる。例⑨は舌面音 x とそり舌音 sh を聞き間違えることで犯した書き間違いであろう。日本語にはそり舌音の sh がない為、発音の習得が難しく、例⑨のような間違いをよく引き起こしてしまうのだろう。

上記 4 種類は本学の学生が中国語の漢字を書くにあたっての主な誤りであるが、うち 2.1～2.3 は日本語の漢字の書き方の干渉を受けているために犯した書き間違いであり、2.4 は発音の不正確さによるものである。漢字の書き間違いの原因を検討することにより、明らかになったのは、単一の原因によるものもあるが、いくつかの原因が複雑に絡み合っているものもあるということである。よって、中国語の漢字を指導する際、指導者は学習者がよく書き間違える漢字を事前に把握し、比較対照を行いつつ、発音の指導にも力を入れ、日本人中国語学習者が犯しやすい箇所を細かく指導する必要があると思われる。

### 3. 文法面によく見られる誤りと要因分析

本章で文法面によく見られる誤用を動詞述語文、形容詞述語文、数詞と量詞、時間詞と時間量詞、助動詞“会” huì と“能” néng、副詞“不” bù と“没” méi、介詞、助詞という 8 つの項目に分け、誤用傾向と要因を考察していく。

#### 3.1 動詞述語文

##### 3.1.1 “是” shì の欠落と余分な付け足し

① (誤) 我们不 是 老师。

(正) 我们不是老师。 [私たちは先生ではない。]

② (誤) 我们也都 是 大学生。

(正) 我们也都是大学生。 [私たちも皆大学生である。]

例①と例②のいずれも動詞“是” shì を使うべきところで欠落してしまった誤用である。主語について肯定的判断を下すには、“A 是 B。”(A は B である。)の“是”構文を用いる。

“是” shì は動作動詞ではないため、副詞が使われると、特に否定副詞“不” bù を用い、否定文を作る際、動詞“是” shì を見落としやすいようである。

③ (誤) 你喜欢猫，还是喜欢狗？我是 喜欢 狗。

(正) 你喜欢猫，还是喜欢狗？我 喜欢 狗。

[あなたは猫が好きか、それとも犬が好きか？私は犬が好きだ。]

④ (誤) 你吃不吃蛋糕？我是 吃 蛋糕。

(正) 你吃不吃蛋糕？我 吃 蛋糕。

[あなたはケーキを食べるか、食べないか？私はケーキを食べる。]

⑤ (誤) 我学习英语，你呢？我不是 学习 英语。

(正) 我学习英语，你呢？我不 学习 英语。

[私は英語を勉強する、あなたは？私は英語を勉強しない。]

例③～⑤は全て動詞“是” shì が不要でないところに余分に付け足された誤用であり、このような間違いを犯した原因は 2 つ考えられる。1 つ目は“是”構文との混同である。例③～⑤における“喜欢” xǐ huan (好む)、“吃” chī (食べる)、“学习” xué xí (勉強する) は述語の役割を果たすため、動詞“是” shì を入れると、二重述語になる。よって、動詞“是” shì は不要となる。2 つ目は疑問文の応答に対する認識不足である。判断文の“A 是 B 吗？”という質問に対し、“是～”か“不是～”で答えるが、中国語の全ての疑問文に対しても、“是～”

か“不是～”で答えるとは限らない。例③～例⑤のような選択疑問文、反復疑問文、省略疑問文に対しては、述語部分（動詞）の肯定形か否定形を使って応答すればよい。

### 3.1.2 “有” yǒu と “在” zài の混同

⑥（誤）我老家有熊本。

（正）我老家在熊本。 [私の実家は熊本にある。]

⑦（誤）你们班多少个学生在？

（正）你们班有多少个学生？ [あなた達のクラスにどれぐらいの学生がいるか？]

所在・存在を表す動詞“有”と“在”はどちらも「いる；ある」と訳すため、用法を誤りやすい。双方の構文は以下の通り対称的になっている。

「場所＋“有”＋（不特定の）人・物」（～に□がある/いる）

「（特定の）人・物＋“在”＋場所」（□が～にある/いる）

「不特定の人や物」の前に“一个” yí ge (1つ；1人)などの数量詞修飾語を受けることが多いが、「特定」とは「誰の～；あの～」と限定できるということである。例⑥の主語“我老家” wǒ lǎo jiā (私の実家)には「特定」と判断できる人称代名詞“我” wǒ (私)がついているため、“在” zài を用いる。例⑦の“学生” xué sheng (学生)は“多少” duō shao (どれぐらい)という数量を問う疑問代詞の修飾を受けるため、“有” yǒu を用い、また動詞“有” yǒu を“多少个学生” duō shao ge xué sheng (どれぐらいの学生)の前に置くべきである。

### 3.1.3 その他の動詞

⑧（誤）我叫林，你呢？

（正）我姓林，你呢？ [私の苗字は林というが、あなたは？]

中国語では、動詞“叫” jiào は「名前（フルネーム）は～という。」であるのに対し、“姓” xìng は「姓は～という」である。苗字だけを名乗る場合は“姓” xìng を用いるべきである。日本語ではいずれも「～という」と表現するため、学生にはなかなか馴染みにくいようであり、例⑧のような誤りは小テストに多く出現していた。

⑨（誤）我在学习汉语呢。

（正）我在学习汉语呢。 [私は中国語を勉強している。]

中国語の“学习” xué xí は日本語の「勉強（する）」と同じく名詞と動詞が同形の単語で、名詞として用いる場合、使い方が同じである。一方、動詞として用いる場合、“学习” xué xí は動詞機能を持っているため、動詞“干” gàn (～をする)を付け加える必要がない。

⑩（誤）我没教过日语留学生。

（正）我没教过留学生日语。 [私は留学生に日本語を教えたことがない。]

“教” jiào (教える)は二重目的語をとる動詞で、「誰に」にあたる間接目的語を、「何を」にあたる直接目的語の前に置くべきである。

⑪（誤）我一个星期打工两次。

（正）我一个星期打两次工。 [私は週2回アルバイトする。]

⑫（誤）我每天睡觉八个小时。

（正）我每天睡八个小时（觉）。 [私は毎日8時間寝る。]

上記の2例は離合詞の語構成に対する認識不足による誤用である。“打工” dǎ gōng (アルバイトする)、“睡觉” shuì jiào (寝る)は訳語からしても1語のように見えるが、語彙的には「動詞＋目的語」の構造であるため、動作の回数や持続時間などを表す動量詞が入る場合、

動詞と目的語を切り離し、その間に入れるべきである。例①の“打工”を“打+工”、例②の“睡觉”を“睡+觉”に分けなくてはならない。本学で使用している教科書には、他に“毕业” *bi yè* (卒業する)、“留学” *liú xué* (留学する)、“游泳” *yóu yǒng* (泳ぐ)、“考试” *kǎo shì* (受験する)、“出门” *chū mén* (出かける)などの離合詞が提示されている。離合詞はまとめて1つの動詞としても働くことができるため、学生はその語構成に注意が行きにくいようである。特に“毕业” *bi yè* (卒業する)、“留学” *liú xué* (留学する)など、日本語にも同形語があるため、日本語に引きずられ、間違いやすいと思われる。指導者が離合詞の語構成を説明する際、前もって動詞と目的語を切り離し、例えば“睡觉” *shuì jiào* を「睡眠を取る」、 “毕业” *bi yè* を「学業を終わる」というふうに提示しておけば、学生が離合詞の語構成をよく理解し、正確に運用できるようになると考えられる。

### 3.2 形容詞述語文

① (誤) 汉语是难。

(正) 汉语很难。 [中国語は難しい。]

② (誤) 这件衣服是不是贵?

(正) 这件衣服贵不贵? [この洋服は高いか?]

③ (誤) 我老家很漂亮。

(正) 我老家很漂亮。 [私の実家はきれいだ。]

④ (誤) 汉语的发音难, 不难语法。

(正) 汉语的发音难, 语法不难。 [中国語の発音は難しいが、文法は難しくない。]

中国語では形容詞がそのまま述語になり、形容詞述語文を構成するため、動詞“是” *shì* を入れてはいけない。例①は英語の形容詞述語文のように“是”を *be* 動詞に用いる誤用である。

“是”を強く発音し、「確かに」と肯定の判断を示す副詞の働きをする場合に限り、例①は成立するが、そうでない場合、“是” *shì* は形容詞“难” *nán* (難しい)と同じく述語であるため、両者の併用はできない。例②のような誤りを犯す原因は例①と類似しており、反復疑問文を作る際、形容詞が述語であることを見極める必要がある。例③は形容詞述語“漂亮” *piào liang* (綺麗だ)の前に、副詞“很” *hěn* (とても)を補うべきである。形容詞が述語になる場合、特に「とても」という意味がなくても副詞“很” *hěn* を伴うのが常である。“很” *hěn* は強く発音しない限り、形容詞述語文を成り立たせるための一種の文法的マーカーである。ただし、“很” *hěn* がなければ、「比較、対照」の意味が生じてしまい、“我老家漂亮。” *wǒ lǎo jiā piào liang* は言い切りになれず、「私の故郷は綺麗だ(しかし、彼の故郷は綺麗ではない)。」の括弧の中のような意味が言外の意味として含まれてしまう。例④は主語と述語の語順が前後する誤りであり、“语法” *yǔ fǎ* (文法)を“不难” *bù nán* (難しくない)の前に置くべきである。

### 3.3 数詞と量詞

① (誤 a) 你们班有几学生?

(誤 b) 你们班有几口学生?

(正) 你们班有多少(个)学生? [あなた達のクラスにどれぐらいの学生がいるか?]

例①には誤りが2つある。1つは、疑問代詞“几” *jǐ* と“多少” *duō shao* の混同である。前者は10未満の数字を予測して用いるのに対し、後者は大きい数字に用いる。もう1つは、量詞“口” *kǒu* の使い方である。量詞“口” *kǒu* は世帯の人数を数える量詞であるため、“学生” *xué sheng* (学生)の人数には使えない。その代わり、量詞“个” *ge* (~人)を使えばいい。な

お、疑問代詞“多少”*duō shao* は量詞を省略し、そのまま単独で用いることができるため、“个”*ge* があってもなくても構わない。

② (誤 a) 我有二个哥哥。

(誤 b) 我有两 $\phi$ 哥哥。

(誤 c) 我有哥哥两个。

(誤 d) 我有两人哥哥。

(正) 我有两个哥哥。 [私には2人の兄がいる。]

例②に見られる誤用の要因はそれぞれ異なる。(誤 a) は数詞“二”*èr* と“两”*liǎng* の混同である。両者はともに2を表すが、度量衡単位の前では、“二”と“两”ともに使用できる。普通の量詞の前では、一律に“两”を用いる<sup>6</sup>。(誤 b) は数詞と名詞の間の「量詞」が欠落した誤用であり、量詞“个”*ge* (～人) を補うべきである。(誤 c) は言葉の配列の誤りであり、数詞が修飾語となった場合、「数詞+量詞+名詞」の語順に従わなくてはならないため、“哥哥两个”を“两个哥哥”に改めるべきである。(誤 d) は量詞“个”*ge* を名詞“人”*rén* と間違えた誤用である。日本語では、人間を数える時、物と区別しているため、それをそのまま中国語に当てはめようとするところから起きた誤りだと考えられる。中国語では、“人”*rén* (人間、人) は名詞であり、人間を数える量詞は物と同じく“个”*ge* を用いるべきである。

③ (誤) 我也尝尝这 $\phi$ 菜。

(正) 我也尝尝这(一)个菜。 [私もこの料理を食べてみたい。]

指示代詞“这”*zhè* (この)、“那”*nà* (その、あの) が修飾語となった場合、“这”*zhè*、“那”*nà* を「数詞+量詞+名詞」フレーズの前に置かなくてはならない。数詞が“一”*yī* の場合は省略できるが、量詞は不可欠である。例③の“这菜”は日本語「この料理」をそのまま中国語に直訳した誤りで、“这个菜”若しくは“这一个菜”に改めるべきである。

### 3.4 時間詞と時間量詞

時間詞と時間量詞を用い、一日のスケジュールを中国語で作文させる際、両者の混同と語順の間違いがよく見られる。以下の例を見ていく。

① (誤) 我每天起床7点。

(正) 我每天7点起床。 [私は毎日7時に起きる。]

② (誤) 我吃午饭12点半。

(正) 我12点半吃午饭。 [私は12時に昼ごはんを食べる。]

例①と②は時間詞と述語動詞の配置における誤用である。「時」を表す時間詞は状語(連用修飾語)に配属され、述語動詞の前に置くべきである。例①の“7点”*qī diǎn* (7時)を“起床”*qǐ chuáng* (起きる)の前に、例②の“12点半”*shí èr diǎn bàn* (12時半)を“吃”*chī* (食べる)の前に持っていくべきである。

③ (誤) 我每天睡7点小时。

(正) 我每天睡7个小时。 [私は毎日7時間寝る。]

④ (誤) 从我家到学校要10分。

(正) 从我家到学校要10分钟。 [私の家から学校まで10分かかる。]

例③と④は時間詞と時間量詞の混同による誤用である。“7点”*qī diǎn* (7時)、“10分”*shí fēn* (10分)はいずれも「時」を表す時間詞であるため、“~个小时”*ge xiǎo shí* (～時間)、

<sup>6</sup> 相原茂 2003、95 頁



“～分钟” fēn zhōng (～分間) のような時間量詞に改めるべきである。

⑤ (誤) 我每天学习汉语两个小时。

(正) 我每天学习两个小时汉语。 [私は毎日2時間中国語を勉強する。]

例⑤は時間量詞と目的語の配置における誤用である。時間量詞は時量補語であるため、動詞の後ろに置くべきであるが、動詞が目的語を伴う場合、動詞と目的語の間に配置される。つまり、例⑤の時間量詞“两个小时” liǎng ge xiǎo shí (2時間) を目的語“汉语” Hànyǔ (中国語) の前に置くべきなのである。このタイプの誤用は、学生が中国語の動詞述語文の語順「主語＋述語＋目的語」を最初に覚えたためか、目的語を全て動詞の後ろに置くべきだと勝手に判断したケースだと考えられる。

### 3.5 助動詞“会” huì と“能” néng

本学で使用している教科書には、“想” xiǎng (願望)、“会” huì (習得)、“能” néng (可能)、“可以” kě yǐ (許可) の4つの助動詞が提示されているが、何か「できる」という時、“会” huì や“能” néng が用いられるため、日本人中国語学習者にとって、両者は混同しやすい。ここで“会” huì と“能” néng を取り上げることとする。

① (誤) 我能游泳了。

(正) 我会游泳了。 [私は泳げるようになった。(習得した技能)]

② (誤) 我会这一本小说看完了。

(正 a) 我能看完这(一)本小说。

(正 b) 我看得完这本小说。 [私はこの小説を読み終えることができる。]

基本的に“会”による技能の習得は極めて初歩的なレベルをクリアしておけばよい。“会” huì が「基本技能を一応クリアしている」ことと考え、その上立って更に「習得した技能の程度」を言及する時は“能” néng を用いる<sup>7</sup>。例①の「泳げるようになった」の場合、まだ初歩的なレベルなので、“能” néng を“会” huì に改めるべきである。なお、“会” が用いられる「技能」というのは、一般的に一旦習得すると一生失うことがないものを指し<sup>8</sup>、もともと備わっている能力やある条件のもとで可能であることを表す場合、“能” néng を用いるべきである。よって、例②の“会” huì を“能” néng に改めるべきであり、文末助詞“了” le を消去しなくてはならない。また、この場合の“能” néng は可能補語“V 得 C”と置き換えられるため、“能看完” néng kàn wán を“看得完” kàn de wán に代えても表現できる。

### 3.6 副詞“不” bù と“没” méi

“不” と“没” はいずれも打ち消しを表す否定副詞であるため、誤りが生じやすい。頻出した誤用例は以下の通りである。

① (誤) 你有不有兄弟姐妹?

(正) 你有没有兄弟姐妹? [あなたは兄弟姉妹がいるか?]

② (誤) 这本小说还看不完。

(正) 这本小说还没看完。 [この小説を私はまだ読み終わっていない。]

③ (誤) 我在不打工。

(正) 我没在打工。 [私はアルバイトしていない。]

<sup>7</sup> 来思平・相原茂 1993、94 頁

<sup>8</sup> 吳麗君他 2005、113 頁

④ (誤) 你去过美国吗? 我不去过美国。

(正) 你去过美国吗? 我没去过美国。

[あなたはアメリカに行ったことがあるか? 私はアメリカに行ったことがない。]

⑤ (誤) 我不教过留学生日语。

(正) 我没教过留学生日语。 [私は留学生に日本語を教えたことがない。]

否定副詞“不” bù と“没” méi の使い分けの1つは、動詞“有” yǒu の否定は“不有” bù yǒu ではなく、“没有” méi yǒu となることである。平叙文を作る際、“不有” bù yǒu のような誤用はさほど見当たらないが、例①のような“有+没有”で構成された反復疑問文においては、“没” méi がよく見落とされる傾向がある。また、“不” bù は動詞の前に置き、“不+V”で習慣的な動作や状態、動作を行う意志、未来の動作の否定に使われるのに対し、“没+V”は動作の完了・実現を表す“V+了”、現在進行中の動作や状態“(正)在+V”・“V+着”、今までの経験“V+过”の否定を表す。例②の“看不完” kàn bu wán 「読み終わらない」は未来の動作の否定であるため、“没看完” méi kàn wán 「読み終わっていない」に改めるべきである。例③の“没在+V”は現在進行中の動作でないことを表す。例④と⑤は経験を表す“V+过”の否定であり、“不” bù ではなく、“没+V+过”を用いるべきである。なお、例④のように助詞“过” guo の欠落も頻出した誤りの1つであり、助詞“了” le と異なり、経験相“V+过”の否定では、助詞“过” guo がそのまま残ることに注意しなければならない。

学生は動詞“有” yǒu の否定に“没” méi を用いることを最初に覚えたためか、それ以外の否定形に全て“不” bù を使ってしまう傾向があるように見える。動詞を否定する際、時制に注意し、“不” bù と“没” méi の使い分けを見極める必要がある。

### 3.7 介詞

中国語でよく使用される介詞フレーズ「介詞+名詞」はふつう状語(連用修飾語)として述語動詞などの前に置かれる。日本語の構造と異なるので、学習者がよく間違える。誤用の要因は以下の4つに分けられる。

(1) 介詞フレーズの語順の混乱

① (誤) 你哥哥我和一样大。

(正) 你哥哥和我一样大。 [お兄さんは私と同年である。]

例①では、介詞“和” hé (〜と) を“我” wǒ (私) の前に置くべきである。このような誤用は日本語の語順「私と」に引きずられ、そのまま中国語の単語を配列するため、“我和” wǒ hé と直訳したからだと考えられる。

(2) 介詞の欠落

② (誤) 我在私塾教高中生英语。

(正) 我在私塾教高中生英语。 [私は塾で高校生に英語を教える。]

例②は“私塾” sī shú (塾) の前に、動作行為の行われる場所を示す介詞“在” zài (〜で) を補うべきである。

(3) 介詞フレーズと述語の位置が前後する

③ (誤) 我们聊天儿用汉语。

(正) 我们用汉语聊天儿。 [私たちは中国語でおしゃべりする。]

例③の“用汉语” yòng Hànyǔ (中国語で) は介詞フレーズで、述語動詞“聊天儿” liáo tiān (おしゃべりする) の前に置くべきである。

(4) 介詞の欠落と語順の混乱

④ (誤) 我学习汉语  $\Phi$  大学。

(正) 我在大学学习汉语。 [私は大学で中国語を勉強する。]

⑤ (誤) 我也想学  $\Phi$  那儿游泳。

(正) 我也想在哪儿学游泳。 [私もあそこで水泳を習いたい。]

例④と⑤は介詞“在” zài (～で) を補った上で、介詞フレーズ“在大学” zài dà xué (大学で)、“在那儿” zài nàr (あそこで) を述語動詞の前に入れるべきである。また、例⑤のような副詞や助動詞が介詞フレーズと共に起する場合、副詞や助動詞を介詞フレーズの前に置くことも注意すべきである。

### 3.8 助詞

#### 3.8.1 構造助詞“的” de の欠落

(1) 名詞修飾語の場合

① (誤) 我们  $\Phi$  专业不是英语。

(正) 我们的专业不是英语。 [私たちの専攻は英語ではない。]

② (誤) 这个是你  $\Phi$  书包，还是他  $\Phi$  书包？

(正) 这个是你的书包，还是他的书包？

「これはあなたのかばん、それとも彼のかばん？」

③ (誤) 她在她的家附近  $\Phi$  便利店打工。

(正) 她在她(的)家附近的便利店打工。

「彼女は彼女の家の近くのコンビニでアルバイトする。」

助詞“的” de は連体修飾語と被修飾語名詞を結ぶ働きをするものであるが、修飾語が人称代名詞で、被修飾語名詞との関係が「親族」または「所属」に限り、“的” de を省略することができる。例①と例②における“专业” zhuān yè (専攻)、“书包” shū bāo (かばん) は人称代名詞の修飾を受けるが、「親族」・「所属」関係ではないため、“的” de は省略できない。また、いくつかの名詞を連続して修飾する場合、最小範囲の修飾には“的” de が必要であり、最大範囲の修飾の“的” de は省略できる<sup>9</sup>。例③のように、最小範囲は“便利店” biàn lì diàn (コンビニ) であるため、それを修飾するには“的” de が必要であるが、“她” tā (彼女) と“家” jiā (家) の間の“的” de は省略できる。また、“她(的)家” tā (de) jiā (彼女の家) と“附近” fù jìn (近く) を繋ぐ助詞“的” de はあってもなくても構わない。

(2) 動詞修飾語の場合

④ (誤) 这是我买  $\Phi$  书。

(正) 这是我买的书。 [これは私が買った本だ。]

⑤ (誤) 我打工  $\Phi$  便利店在天神。

(正) 我打工的便利店在天神。 [私がアルバイトするコンビニは天神にある。]

日本語においては、動詞が自由に名詞を修飾できるのに対し、中国語においては、連体修飾語が動詞句の場合、修飾語と被修飾語の間の助詞“的”を用いるのが原則である。例④の“我买的书” wǒ mǎi de shū は「私が買った本」であるが、“的” de を省略すると、「私が本を買う」になってしまう。例⑤も同様、“便利店” biàn lì diàn (コンビニ) は“打工” dǎ gōng (アルバイトする) の修飾を受けるため、間に助詞“的” de が必要である。上記 2 例のいずれも

<sup>9</sup> 郭春貴 2001、66 頁

学生が母語である日本語の影響を受け、中国語にも日本語同様な用い方で直訳したために犯した間違いであろう。

### 3.8.2 文末助詞 “吗” ma と “呢” ne

⑥ (誤) 你在干什么吗?

(正) 你在干什么? [あなたは何をしていますか?]

⑦ (誤) 现在几点吗?

(正) 现在几点? [今何時か?]

⑧ (誤) 你喜欢狗吗?

(正) 你喜欢狗吗? [あなたは犬が好きか?]

中国語の文末助詞“吗”maは日本語の「…か?」にあたり、疑問の意を表すが、日本語のように全ての疑問文の文末につくとは限らない。例⑥と⑦は疑問詞疑問文であり、文中“什么”shén me (何)、“几点”jǐ diǎn (何時)という疑問を示す標識があるため、文末の“吗”maは不要となる。それに対し、当否疑問文を組み立てる際、“吗”maを平叙文の文末に置かなくてはならない。例⑧の文末に“吗”maがなければ、「あなたは犬が好きだ」という平叙文になってしまう。

⑨ (誤) 我学习英语, 你呢?

(正) 我学习英语, 你呢? [私は英語を勉強する、あなたは?]

例⑨は文末助詞“吗”maと“呢”neの取り違いによる誤りであろう。“吗”maは平叙文の文末に置き、「…か?」にあたるが、“呢”neは「名詞・代詞+“呢”」の組み立てで述部を省略した省略疑問文に用いられ、日本語の「…は?」にあたる。例⑨においては、“我学习英语。”wǒ xué xí Yīng yǔ (私は英語を勉強する。)という前提があるため、相手に“你学习英语吗?”nǐ xué xí Yīng yǔ ma (あなたは英語を勉強するか?)という質問を繰り返さず、“你呢”ne (あなたは?)を使ったほうが簡潔になる。

## 4. 誤用から考えた学習効果を高める提案

第二言語学習者の誤用には様々な種類があり、それぞれの誤用は指導者に重要なメッセージを伝えていると思われる。誤用の重要性を主張した Corder (1967) は、学習者の「誤り」は学習過程のある時点で、学習者が使っている (すなわち学んだ) 言語の体系の証拠を提供してくれる。「誤り」は学習者自身にとって不可避なものであると述べている<sup>10</sup>。指導者が、学習者が犯しやすい誤りがある程度知っておけば、学習者にとっての学習上の難点を察知でき、日本人中国語学習者を指導する際のヒントも得られるだろうと考えられる。以下、第二言語習得における誤用分析の結果に基づき、誤用から考えた中国語の漢字と文法の学習効果を高める指導方法を提案する。

### 4.1 中国語の漢字の学習効果を高める提案

日本人中国語学習者は入門期の段階で、中国語の発音の難しさを強く感じるが、漢字にあまり注意を払わず、字形から推測し、母語である日本語に頼ろうとする傾向がよく見られる。母語からの干渉を排除し、学習効果を高める適切な方法は、指導者が日中両言語の比較対照を心がけ、漢字の音・形・義をはっきり解説することであろう。具体的に以下の3点を提案したい。

<sup>10</sup> Corder, S.P. 1967, 167 頁。訳文は Corder, S.P.1999, 119 頁を参考にした。

(1) 漢字の発音について

発音の不正確さによる書き間違いを改善するには、日頃から発音の指導に力を入れなくてはならないと思われる。特に r-l、z-zh、ian-iang など日本人中国語学習者が区別しにくい発音について、比較分析する必要があると考えられる。また、個人差を考慮に入れ、様々な適性を持った学習者全員に細心の注意を払わなければならない。特に音声認識能力が低い学習者に対し、教科書の音声ファイルや Plus Media の動画をスマートフォン等でダウンロードさせ、家庭学習で聞けるように指示するなどの工夫が必要となると思われる。授業中、動画などのコンテンツを活用すれば、学習者が比較的容易に発音の要領をつかむことができるだろう。

(2) 漢字の字形について

習慣的な書き間違いや漢字の組み立ての混乱による間違いを避けるには、日中漢字の細部の違いを細かく示し、正しい書き方に沿って「正確に」書くように指導しなければならないと思われる。また、指導者がよく間違う漢字の部首などを取り出し、前もって学習者に注意しておく、書き間違いの問題は必ず改善できると考えられる。

(3) 漢字の意味について

王順洪・西川和男によると「中日両国の漢字語には多くの共通部分があるので、日本人が漢字語に接した時、心理学の原理により、日本語の意味がどうしても条件反射として脳に入り、中国語とずれた重なりとなり、中国語の正しい理解に影響を及ぼす。」<sup>11</sup> 日本人中国語学習者が「～が好きだ」を“好” hǎo (良い、元気だ) で直訳するのは日本語と中国語の漢字の「共通部分」に対する認識不足であろう。それも日本語の漢字がもたらした「負の影響」とも言えよう。指導者が語彙学習を指導するにあたっては、語彙の意味説明で終えるのではなく、他の語との関連、同意語や反意語も併せて説明する必要がある。特に日中同形語や同義異形語を取り扱う際は、日中両言語の比較対照を行わなければならないと思われる。また、誤用訂正練習により間違いやすい箇所を学習者自ら気付かせることで、単語が持つ意味をしっかりと理解し、さらに正確に運用にもつながるだろう。

## 4.2 中国語の文法の学習効果を高める提案

日本人中国語学習者の文法面における誤用は主に母語である日本語の影響によることは言うまでもない。いかに母語の影響を取り除き、学習効果を高めるかは語学指導者の大きな教育目標の1つだと思われる。具体的に以下の3点を提案したい。

(1) 学習者の学習困難点を予知する

誤用の内容が学習者のレベルによって大きく異なり、誤用の原因を簡単に説明できるものもあり、指導者があまり気づかないものも少なからずあると思われる。指導者は中国語の構文の仕組みを説明する際、学習者が難しいと感じる点や疑問とする箇所を予測し、日本語と比較対照しながら解説しなくてはならない。そうすることで、学習者が構文の仕組み、また中国語の文法体系に対しても理解を深め、誤用を避けることができると考えられる。

<sup>11</sup> 王順洪、西川和男 1995、64頁。訳文は呉麗君他 2005、156頁を参考にした。

(2) 関連文法をまとめると同時に簡潔さを追求する

初級段階の文法はほとんど常用されるものであり、意味も単純で習得しやすいが、漢字表記が同じでも、品詞が異なれば、使い方が全く違うものもある。例えば、介詞としての“在” zài、存在を表す動詞としての“在” zài と進行を表す副詞としての“在” zài が教科書では連続して提示されているため、日本語と対照しながら、3つの“在” zài をまとめて説明する必要があると思われる。初級段階における単語や文法事項の量は限られているため、学習者の混乱を招かないように、やや複雑な用法についても、できる限り短くて理解しやすい文例を用いるなど、説明の簡潔さを重視しなくてはならないと思われる。また、言語分析能力が低い学習者に対し、補助教材などで家庭学習をさせることで、中国語の文法の法則に関する敏感さが高まり、上達が早くなるだろうと考えられる。

(3) 学習者の動機づけを高める手助けをする

学習者の動機づけを高める方法として注目されているのが、タスクモチベーション(task motivation)という考え方である。これは統合的動機づけや道具的動機づけなど、比較的安定した動機づけだけではなく、どのようなタスクであれば、動機づけが高まるのか、また、漠然とした動機づけをいかに具体化し、学習行動に結びづけさせるのか、というのが我々指導者の重要な役割であろう<sup>12</sup>。具体的には、次の2点を提案したい。1つ目は、習得した文法を用い、スマホやタブレットで会話練習に生かすことでモチベーションを維持する。そうすることで、自分の中国語のギャップ、つまり言えないことについて気が付き、また相手の反応をみることにより、自分の中国語が通じるかどうか、検証もできるだろう。2つ目は、インプット(Listening, Reading)だけでなく、アウトプット(Speaking, Writing)も重視する。他人に関する質問よりも、自分自身に関する質問をよく記憶しているため<sup>13</sup>、アウトプットする際、出来る限り自分のことについて話させる。

## おわりに

西川和男によると「外国語教育で最も大切なことは、学習者の要求が多様化する中で、その学習者の要求にあった教授法を常に模索して、より効果的、総合的な指導を行わなければならないことである。」<sup>14</sup>指導者が学習者の誤用例を分析することにより、中国語の基礎を正しく覚えていく手助けをいかに効果的に行うかを常に探らなければいけないと思われる。

本稿で取り扱った誤用例は学習者が初級の段階で間違いやすいごく基本的なものであり、収集したデータの数にも限りがあるため、系統的に中国語の誤用分析ができたとはまだ言い難い。しかし、指導者が初級の授業を行う際、これらの誤用例を誤用の理由とともに学習者に提示しておけば、学習者の中国語学習の効果は必ず上がるとと思われる。また、学習者が誤用の原因を正しく理解すれば、中国語学習に対して興味が沸き、更に意識的に日中両言語を対照しながら、両言語の語彙、文法、文化背景における差異を根本から理解しようとする意欲を持つようになり、中国語の継続履修者は今後増えていくと考えられる。

本稿の考察結果を踏まえ、更に日中対照言語学研究的観点から、日本人中国語学習者による誤用を初級から上級までの学習レベルに応じて体系的に整理し、分析・考察を行うことで、そ

<sup>12</sup> 白井恭弘 2023、24-25 頁

<sup>13</sup> Zimmer, C. 2005、94 頁。訳文はジンマー、C. 2006、42 頁を参考にした。

<sup>14</sup> 呉麗君他 2005、386 頁

の実態を明らかにする必要があると思われるが、それらは今後の課題としたい。

## 参考文献

### (1) 日本語参考文献

- 相原茂『中国語学習ハンドブック改訂版』大修館書店、2003年
- 王幼敏著・村上牧子訳「日本人中国語学習者によく見られる誤り—具体例からの分析—」  
『愛知県立大学外国語学部紀要（言語・文学編）』第52号、2020年、239-260頁
- 奥村佳代子・塩山正純・張軼欧『初級中国語会話編～自分のことばで話す中国語～』、金星堂、2017年
- 奥村佳代子・塩山正純・張軼欧『初級中国語会話編改訂版～自分のことばで話す中国語～』、金星堂、2023年
- 郭春貴『誤用から学ぶ中国語—基礎から応用まで—』白帝社、2001年
- 九州産業大学『外国語学習の手引き 2022』、九州産業大学語学教育研究センター、2022年
- 呉紅華「本学における初修外国語としての中国語教育の現状と課題」、『九州産業大学語学教育研究センター紀要』第17号、2022年、59-71頁
- 呉麗君他著・西川和男訳『中国語の誤用分析—日本人学習者の場合—』関西大学出版部、2005年
- 白井恭弘『英語教師のための第二言語習得論入門[改訂版]』、大修館書店、2023年
- 来思平・相原茂『日本人の中国語 誤用例 54 例』東方書店、1993年
- Corder, S.P.著・矢田裕士訳「学習者の誤文が意味するもの」、『英語英文学研究』、第5号、1999年、111-123頁
- JACET SLA 研究会『文献からみる第二言語習得研究』開拓社、2005年
- ジンマー, C.著・日経サイエンス編集部訳「自己の神経生物学 『私』は脳のどこにいるのか」、  
『日経サイエンス』、36巻3号、2006年、42-50頁
- 文化庁「常用漢字表(平成22年内閣告示第2号)」2010年 (<https://www.bunka.go.jp>, 2023年12月12日取得)

### (2) 中国語参考文献

- 王順洪《日本人漢語学習研究》北京大学出版社、2008年
- 王順洪、西川和男〈中日漢字異同及其對日本人學習漢語之影響〉、《世界漢語教學》、1995年第2期、60-65頁、北京語言學院、1995年
- 吳麗君等《日本學生漢語習得偏誤研究》中國社會科學出版社、2002年
- 趙元任著、呂叔湘譯《漢語口語語法》商務印書館、1979年

### (3) 英語参考文献

- Corder, S. P. (1967). The significance of learner's errors. *International Review of Applied Linguistics in Language Teaching*, 5 (4), 161-170.
- Chao, Y. R. (1968). *A grammar of spoken Chinese*, University of California Press.
- Gass, S. M., & Torres, M. J. A. (2005). ATTENTION WHEN? An investigation of the ordering effect of input and interaction. *Studies in Second Language Acquisition*, 27 (1), 1-31.
- Zimmer, C. (2005). The neurobiology of the self. *Scientific American*, 293 (5), 92-101.

※本稿は2023年12月に行われた日中対照言語学会第49回大会で行った発表をもとにまとめたものである。報告に対して貴重な意見を提供して下さいました先生方に感謝申し上げます。また、本稿の作成にあたり、協力して下さいました履修生の皆さん、有益なご助言を下さった「九州産業大学語学教育研究センター紀要」編集委員会の先生方及び中国南寧師範大学外国人教師の山口要先生にも心より謝意を申し上げます。

## 付録1

奥村佳代子・塩山正純・張軼欧『初級中国語会話編～自分のことばで話す中国語～』

### 目次

- 第1課 ・声調・中国語の音節・韻母1（単母音）・韻母2（複母音）
- 第2課 ・声母1（唇音・舌先音・舌根音）・声母2（舌面音・そり舌音・舌歯音）・韻母（鼻母音）
- 第3課 ・轻声・“不”と“一”の声調変化・第3声の連続・r化
- 第4課 ・基本の数・年齢・値段・時刻・日付・曜日
- 第5課 ・代名詞・「～は…である」の“是”・疑問文1 疑問詞疑問文“什么”“谁”  
・主語＋動詞（述語）＋目的語
- 第6課 ・疑問文2 “呢”を使った省略疑問文・副詞“也”“不”“都”と文中の位置  
・疑問文3 “吗”・疑問文 推測を表す“吧”
- 第7課 ・場所を表す代名詞・“的”の省略・疑問文5 選択疑問文・形容詞述語文
- 第8課 ・疑問文6 反復疑問文 ・量詞・名詞述語文・比較文
- 第9課 ・介詞“离”“从”“到”・時刻（時点）と文中の位置・時間の長さ（時量）と文中での位置  
・連動文 主語＋動詞1＋動詞2
- 第10課 ・介詞“在”“离”・二重目的語をとる文・数量補語・所在と存在を表す“有”“在”  
・助動詞 願望を表す“想”
- 第11課 ・“了”1 動作の完了・実現・結果補語・動詞の重ね型・進行を表す表現・経験 動詞＋“过”
- 第12課 ・方位詞 場所を表す表現・持続を表す助詞“着”  
・助動詞 習得の“会” 能力の“能” 許可の“可以”  
・“了”2 文末で変化を表す・修飾語と被修飾語を繋ぐ“的”
- 第13課 ・介詞“把”・方法補語・主述述語文・使役動詞“让”・可能補語
- 第14課 ・受け身・様態補語・“（是）～的”・近未来表現・副詞“又”“再”

## 付録2 和文中訳練習問題

### 「中国語会話Ⅰ」

- ①彼らもみんな音楽が好きです。
- ②あなたの実家も福岡にあるでしょう？
- ③あなたたちのクラスにはどれぐらいの学生がいますか？
- ④この（一着の）洋服は高いですか。（反復疑問文）
- ⑤姉は私より二つ年上です。
- ⑥中国語は英語ほど難しくないです。
- ⑦これはあなたのかばんですか、それとも彼のかばんですか？
- ⑧私には二人の兄がいます。
- ⑨私は今年18歳ではありません。19歳です。
- ⑩今年の夏はとても暑かったです。

### 「中国語会話Ⅱ」

- ①私は泳げるようになりました。（習得した技能）
- ②私がアルバイトするコンビニは天神にあります。
- ③彼女は家の近くのコンビニでアルバイトをします。
- ④私は一週間に二回アルバイトします。
- ⑤私は毎日歩いてアルバイトに行きます。
- ⑥私もこの料理を味見してみたいです。（動詞の重ね型）
- ⑦この（一冊の）小説はまだ読み終わっていません。
- ⑧私はこの（一冊の）小説を読み終えることができます。
- ⑨黒板に沢山の字が書いてあります。
- ⑩私は留学生に日本語を教えたことがありません。